

第4回地域型住宅「信濃町の家」構築検討委員会 議事録

日 時：平成29年1月13日（金）15：00から

場 所：信濃町役場 第1会議室

出席者：検討委員8名（2名欠席）、事務局7名、桂川アドバイザー

1 開 会

（事務局）

定刻となりましたので始めさせていただきたいと思います。

それでは、次第によりまして進めさせていただきます。2のあいさつと致しまして、鹿島委員長よりあいさつをお願いします。

2 あいさつ

（鹿島委員長）

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

1月中旬になり、やっと信濃町らしく雪が降ってところでございます。

信濃町の家を良いプロジェクトになるように、皆さんのお知恵を拝借してやっていきたいとおもいますので、よろしく願いいたします。

3 議事録の確認

（事務局）

資料 第3回地域型住宅「信濃町の家」構築検討委員会議事録より説明。

4 議題（議長は鹿島委員長）

（1）町内の住宅産業の課題（町内建築士へのヒアリングより）

（事務局SCOP）

資料1、資料2により説明。

（2）「信濃町の家」の基準について

（事務局SCOP）

（A委員）

信濃町の家を売るターゲットが町外であるので、イメージとは違っていた。

木材の地産地消を進めるので、町内での施工を考えていた。

（事務局）

町内だけがターゲットだと新築件数が少ないため、商圈を長野市に設定した。

(B委員)

私も少し前まで、町内に建築する人を支援していく事業だと思っていたが、経済規模が小さいことも理解できますが、町内で新築している工務店を見ると、大手メーカーが施工しているところを、少しでも町内業者に切り替えれないかとの思いもあることを、お含みいただけたらと思います。

(事務局)

町としても町内で建築された方には、優遇を検討しております。

(C委員)

2つの側面を持っていると思うのですが、地域で建てるという、中からのお金を外に出さない面と、移住定住の外から呼び込む側面があると思うのですが、それだけだとパイが小さい。これだけのお金をかけて事業を行うし、ウェブでの営業が生きてこないと思います。

理想は町内で建築されれば理想なのだと感じます。

(事務局)

産業振興の面から考える必要もありますので、今後の基準等でも考えて行きたいと思います。

資料3により説明。

(D委員)

仕様に関しては、東白川村でも設定していないとお聞きしていますが、最低限の安全を確保できていれば良いとは個人的には思います。

(E委員)

モデル展示場のようなものが必要だと思う。Web上のインターネットで見て判断してもらう方が良いのか難しいですね。大手のメーカーは見て、体験するものが多い。

(B委員)

仕様はあまりしぼり設けない方がよいのとの意見もありましたが、仕様が決まっていないのでお客が受けるイメージですかね。

(C委員)

個人的にはあまり耐震の基準を上げるとか下げるとかを議論してもあまり意味が無いと思っている。東白川村のフォレストスタイルは、仕様を決めず地域の木材を使って住宅を建てるということが、一般消費者が選択できることが要因となっていると考えます。東白川村の木を使った家が欲しいお客さんが、耐震性や断熱性などを気にする方はいないと思います。木のデザイン性とか木の温もりに魅力を感じていると思う。最低限の仕様で問題ないと思います。

(D委員)

最低限守る。担保する。部分を明確にする必要があると思う。豪雪地や寒冷地がある信濃町なのでイメージ北海道は住環境を強く設定しているし、長野県の信州健康エコ住宅では木をメインに出している。信濃町の家はどこを強めに出すのかと考えると、平均ではダメだと思うので、ストロングポイントである少し飛び出た仕様の方が良いと考えます。

(F委員)

信濃町の家仕様を議論していて、断熱効果や耐震性を議論してもどこのメーカーでもある話だと思う。町産材を活用する部分が見えない。信濃町らしさが出ないようではあまり意味がないのでは無いか。

(C委員)

林業関係者に質問なのですが、信濃町の木材で柱、梁や、外壁板張り、床材など全体の何パーセントまで使用できるのですか。

(F委員)

スギであれば柱は100%できる。営林署や森林組合から市場に出る木材を確保できれば出来ると思う。また、桁材も大丈夫だと思う。

(E委員)

殆ど問題なく使えると思う。

(C委員)

個人的には50%も出来ないと思っていた。柱をプレゼンとするのか、全体的に町産材の割合を決めるのかは必要だと感じた。安定的な供給も可能なのでしょうか。

(F委員)

安定的な供給は量にもよるが、受注が増えれば難しいところもある。

(D委員)

事業者のセールスポイントとしては良いと思うのですが、地域材の縛りがある制度の中でやっているが、県産材は残念ながら使われないのが現状である。全てを県産材でやっている工務店もある。ニーズとして信濃町の木を使うお客様はいると思うが、事業者側として県産材をあまり使いたがらない傾向にある。

(G委員)

町内でも成功事例がありまして、地元の木材で家を建てたいとの要望があり建築されました。県産材が使われなくなったのは買いやすいさだと感じている。電話一本で希望の物が間違いなく

納期に手に入る。それは安い米松などになっています。地域材を使うにはどうしても時間が必要となります。生物なので乾燥する時間、加工する時間を考えると時間かかる。

地域材は多くあるし、出荷しているのが事実なので、地域材を使用して建てたいお客さんに流通できる仕組みを考えないといけないと思います。

(F 委員)

地域材は乾燥してから、養生に2ヶ月から3ヶ月かかるので、ある程度、在庫を抱えているなら対応は可能だと思う。

(事務局)

特典のところはどうでしょうか。ポイント交換などありますが、東白川村での交換商品はどのような物があるのでしょうか。

(桂川アドバイザー)

村の中で購入できるものは何でも良いことにはしておりますが、一番出ているのはテーブルなや地域工務店が作った家具などが出ております。それ以外はお米や旅館宿泊などがあります。また、村の中で使用する地域通貨でポイント交換する場合もあります。

村外に住んでいる方でも、地域通貨交換の要望には応えております。

フォレストスタイルシステム開設したときに、お客様が楽しみして見てくれるように、何か設けると強みになる。建築現場の工程を画像で見せることによって、木の良さを見てもらうのですが、お客様の同意が取りにくい場合があります。公開を認めるとポイントが付く仕組みがあると良いと感じています。

(C 委員)

フォレストスタイルに来る人に、製材所見学や森の中には製材しない雑木があるので、それをプレゼントするなどの特典があると良いと思います。

(G 委員)

雑木については、活用が始まっていて長野市に町産材で作られた家具屋さんがあります。豪雪で育った木が良いと言うことで学習机になっております。他の価値を持った木材があると思いますので事業者が使いやすい木材の流通システムづくりが重要だと思います。

<休憩>

(3) 「信濃町の家」の住宅モデル

(高遠委員より)

(4) 町産材の理由について

(赤松委員より)

(高遠委員)

町産材の特色はどのようなものか。

(G委員)

気象条件が厳しいので木目が詰まっています。標高の高いところではフィンランドのような目の詰まり方をしてはいますが、分類して出荷することができれば、高耐久の家が出来るのではと思っています。

(B委員)

柱材では強度はあまり必要ではないのですが、桁材で使用できればと考えます。

(E委員)

昔、山の北側で育った木は北側で使い、山の南側で育った木は南側で使うと教えていただいたことがありますが、今はどこの木かわからない状態です。

(G委員)

九州の現場に行くとわかるのですが、ヒノキはあるが匂いが薄いです。厳しい環境で育ったものは自信を持って使って良いと思います。信濃町の広葉樹林にはナラが多く含まれております。広葉樹のナラだけはギリギリ採算が合うが、他の樹種では採算が合わないのが現状です。

(高遠委員)

低量的にでも町有林のナラを住宅で使うことが出来れば、ブランドのナラとして定着するのではないか。

(D委員)

森林間伐等で行政の補助等が入っておりますが、行政の補助等が無くなった場合には、今後、森林維持はできるのでしょうか。

(G委員)

一世代だったら維持できます。間伐して、成熟した木を切ってしまうまでは出来るのですが、再造林まで出来る収入があったり、不足分を行政で補うような仕組みがあれば、安く切れると思います。間伐でやっているものを皆伐できるのですが、そのあたりが見えていないので、このあたりでは皆伐は少ないです。九州ではやっています。また、信濃町では再造林を一昨年0.8ha行っております。

(桂川アドバイザー)

始めに商圈を町内、町外にする話がありましたが、町内の工務店が外に出て技術や価格など競争してみることで磨かれて、町内の方が建築をお願いしてみようと感じると思います。また、行政が町内だけを商圈にしても、町民から見ても競争力の無さを感じるので、外に向けた目標をもって行く方が良いと感じます。

次に基準を設けて、ある程度補助をする話がありましたが、最前線に立たれる工務店が顧客に対してプレゼンをしたり営業の一環ツールとして使っていかなければならないので、県産材にしても何にしても国や県の仕様については、顧客から見るとわかりにくいと思います。

東白川村では、基準を設けるのではなく柱をあげます。といったインパクトのある最前線に立たれる方の営業のしやすさ、顧客から見てお得感やわかりやすさが大切だと思います。

基本は町の木材が町内外を使い、町内で雇用が生まれ、外のお金が町内に流れ込むような仕組みが目標だと思っております。

(3) その他

次回の開催について

(事務局)

次回の日程につきましては、正副委員長と相談し、改めて通知させていただきます。

5 閉会

17時45分終了